

丹後機業の動き

加速的に進む廃業、機場の生産能力の低下、求められる協同の産地力

- 日銀は7月2日に発表した企業短期経済観測調査（短観）は、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が大企業製造業でマイナス1となり、3期（9ヶ月）ぶりに改善した。市場では悪化または横ばいを予想する見方が多かったが、円高進行が一服したことや世界的な原油価格の下落、好調な自動車販売が後押しし、市場の事前予想を上回った。ただ、欧州債務問題や中国経済の減速など景気下振れリスクも多く、このまま順調に景気回復が進むかは不透明としている。
- 京滋企業の業況判断指数（DI）は、マイナス13と前期（3月）比1ポイント悪化している。これは、欧州の信用不安や中国の景気減速から輸出が低迷したためであり、和装も18ポイント改善したが依然マイナス29と厳しい状況が続いている。
- 生糸価格は、大きな変動はないが強含みのなかで推移している。しかし、産地全体として適正な工賃を取ることができていない。
- 機場を確保するためには、高く売ることによって利益率を上げ、機屋の生活を保証することが必要である。また、親機間の得意分野の連携で、ものづくり力を高めるなど計画生産ができる新しい機業経営の必要がある。
- 和装の海外生産基地は中国からベトナムへ移行した。一方、洋装や風呂敷関係は国内回帰が始まっている。

（調査時期：平成24年6月中旬～6月下旬）

（調査機関：（株）京都産業21北部支援センター）

【ちりめん(白生地)】

- 平成24年1～6月の生産量は、22.5万反で前年比92.4%（無地4.1万反・同74.5%、紋18.4万反・同97.7%）となった。無地の減少が大きいが6月の生産では紋・無地共に増加の傾向となっている。
- 財務省の貿易統計によると、平成24年5月現在の小幅白生地輸入数量（無地及び紋）は、14.5万反で前年比92.5%と減少している。このうち主たる輸入先である中国からは、10.4万反で前年比89.4%と減少している。
- 今年に入って無地は低調であるが、室町とはジャカード物はタイトもしくは足りない状況が続いている。その要因は機場の高齢化による廃業等で生産能力の低下が上げられる。丹後全体で機場の減少が課題となっている。機場を確保するための方策や織工賃の見直しが行われている。機場の確保には、従事者の生活の保証であり、後継者の確保に繋がる。昨年3.11の大災害と大事故、糸価の暴騰、そして大暴落と激震に見舞われたが幸いにこれくらいで済んだ。現状に歯止めを掛けるには、産地を一つとして取り組む必要があるとの声が聞かれた。

【帯地】

- 平成23年（1～12月）の西陣帯地推定出荷量は、69.5万本で前年比81%と震災や和装需要の不振の影響により大きく減少している。その状況は、今年の1～4月も前年同期比で98%と改善の傾向は見られない。
- 一部の値頃品は動いているようだが、ガチャ織りで胴の軽い（越数が少ない）ものでコストダウンを図ったものと、一品物の両極端の状態となり中間品の荷動きが悪い。織工賃の良い物でもロットは小さく、2～3本も織れば柄や配色が替わる。そのため下準備に時間がかかり結果的に生産調整となり、工賃は減収となっている。
- また、パイル織や本袋など織り技術が必要とするものは、全ての出機で対応できるわけではなく、高齢化の中でますます技術的に格差が広がっている。親機では、良い機場を確保するために、織工賃から給料制への移行が増えつつあり、安心した生産環境で良いものづくりへ繋ぎたいとしている。

【広幅織物】

- 服地では、正絹物はロットが小さくスポット的である。一部の機業であるがブラックフォーマルでメイド・イン・ジャパンとして日本製への回帰の企画が動き出している。

ポリちり関係はシーズンオフでもあるが、ここに来て厳しい状況となっている。ポリちりは和装のイメージに近く、ハイミセスの高級ゾーンの商品として一世を風靡したが、世代交代の中で市場が変わったとの見方が強い。

- ネクタイは、国産は10分の1まで減少し、500万本を山梨・西陣・八王子等各産地で取り合っており、丹後ではその内の10%程度が生産されている。しかし、節電対策の中で冷房の温度が上げられノーネクタイが定着し、6月から9月のスーパークールビズの取組の浸透は、追加注文の減少、新提案の要求で見本取りが多く、生産量は減少して厳しい状況となっている。そのため、ネクタイ以外の新しい用途への素材開発も模索されている。
- カーシートは、円高の影響で、自動車産業が海外での生産にシフトした。関連業種も海外について出るが、現地での競争が激化、コストダウンに拍車がかかっている。国内では、コストを下げるため後染めの企画が多い。しかし、織工賃はそのままでも、染めてみて初めて欠点が発生するなど、リスクの高い仕事の中で厳しい品質管理が求められている。自動車各社は円高メリットのある輸入部品の採用も拡大していることから、単品の製織では継続が困難なため、お守り用生地・インテリア素材などとの複合化や、カーシートからの撤退の声も聞かれた。

【小物】

- 風呂敷は、生地売りとしては、正絹、300番共に低調であるが、記念品などの用途の完成品としての販売は順調な伸びを示している。和装関係の衰退は結婚式等の儀式的簡略化でフォーマルとしての風呂敷の使用が減少していることに対して、インテリアや生活用品としての取り扱いが伸びている。資材用のレーヨンちりめんは比較的順調に推移しているが、京都の精練工場が6月末で廃業するなど、製織現場の減少と合わせて、ものづくり現場の確保が課題となっている。
- 帯揚げ、衿等の和装小物は売れる量が減少している。着物一枚に対して何枚かのセットでの販売が各1枚となっている。化繊の衿では耳を構成しないヒートカットの安価な物がよく売れている。これは着る機会の減少の中で、行事を貸衣装で済ませることが多く、襦袢は自分持ちやお買い上げであっても使い捨ての感覚によるものと思われる。